＊＊　集団の中の人間関係　＊＊

【 集団の魅力 】

私たちがある集団に所属する場合、その集団には私たちの気持ちを引き付ける何らかの魅力があると考えられる。その魅力は下記の５つがある。

1. **集団活動それ自体の魅力**
2. **集団の目標に対する魅力**
3. **集団の持っている社会的価値への魅力**
4. **集団が自分の目標や達成手段となる魅力**
5. **集団の人間関係の魅力**

ただ集団に入る前と入った後とでは、魅力が変わる場合も多々ある。例えば入る前は、集団の活動に魅力を感じていたが、入ってみると、その集団の人間関係により大きな魅力を感じるようになった、とかである。

集団としてまとまって活動するには、個人で活動することとは異なる点もある。例えば個人で活動する場合は、自分の好きなようにスケジュールを立て、やりたい時に始め、やめたい時にやめればいいが、集団の一員となって活動する場合にはそれは許されないことである。それが集団であり、組織というものだからだ。

【 集団凝集性 】

集団には、**①凝集性と②斉一性**という２つの力が働く。

1. **凝集性：集団ができると、自然と集団としてまとまろうとする性質のこと。**
2. **斉一性：できるだけ同一性を保ち、メンバーの逸脱を嫌うようになる性質のこと。**

【 内集団ひいき性 】⇒　親の欲目

自分と同じ集団に属している人を他の集団に属している人より高く評価する傾向のこと。一種の対人認知の錯誤である。

【 社会的アイデンティティ 】⇒　コミットメント(自我関与)、過適応

ある集団に所属すると、その集団に所属していることが、その人のアイデンティティ(自分らしさ)の一部になる。そうなると、**その集団への社会的評価は、自分自身への評価にもなる**。人には自分自身を肯定的に評価したいという思いがあるので、自分の所属している集団を高く評価しようとするのである。それは自分自身を高く評価するのと同じことにつながるからである。

【 外集団認知の錯誤 】

多数派に比べて少数派に対して**極端に否定的な評価を下す認知的傾向**があること。例えば、日本にいる外国人が罪を犯すと「外国人には犯罪者が多い」とかである。

【 外集団同質性知覚 】

外から見た時、その集団に所属しているメンバーをみな同じように見てしまう認知的傾向のこと。人には、自分が所属している集団のメンバーは一人ひとりの違いが見え、各々個性的であると知覚するが、外の集団に関しては、一様に見えてしまう傾向がある。